

プログラム名	
植物から学ぶ「いのちのリレー」「タネ」の実験教室	
プログラムの概要・ねらい	
◎植物の種子を題材に、子孫を残すための驚きの仕組みを学びます。◎実物の種子を使った楽しい観察と実験を行います。◎個体としては限りある命が、懸命に工夫を凝らして子孫を残すことで、永く生き続けてゆくことを学ぶことを通じて、我々ヒトの「持続性」の問題について考えるきっかけ作りを行ないます。	
プログラムの分野	
地球温暖化防止・エネルギー ごみ・3R 自然 生き物 大気 水 その他	
プログラムの対象者	
幼稚園 ・ 小学校低学年 ・ 小学校中学年 ・ 小学校高学年 ・ 中学校 特別支援学校（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
100 名程度まで	
実施場所	所要時間
学校敷地内	※幼稚園については、原則1時間まで 約2時間
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	筆記用具(生徒児童園児各自) ストップウォッチ タネを飛ばすための踏み台
団場で準備するもの	観察・実験用の種子 記録用冊子
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
屋内実施のため、予想される危険は少ないものと思われませんが、風散布種子の飛行実験を行うために高い場所にあがる必要があります。安全な踏み台の用意、実験時の安全管理には注意します。その他のリスクの想定・防止については、学校側の担当の先生と事前に十分な話し合いを持ちます。	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導 入	◎「どんぐりはかせ」になろう ◆「どんぐり推理」 子供たちの大好きな「どんぐり」。一口に「どんぐり」といってもその種類はさまざまです。「どんぐり」をじっくり観察することで木の種類を推理する方法を学びます。 ◆「どんぐりのひみつ」 「どんぐり」がまるくてかわいいのはなぜだろう？コロコロ転がるだけで、子供の木は増えるのかな？クイズを通して、「どんぐり」の木が子孫を増やすなかで、様々なほかの生き物と関係を持っていることを学びます。	
展 開	◎「空飛ぶタネ」の実験 ◆風に吹かれて運ばれる種子は、親の木から離れて地面に落ちるまでが勝負。チームに分かれて、一番滞空時間の長い種子を予想します。 ◆チーム毎に実際に種子を飛ばしてみます。ストップウォッチで滞空時間をはかり、優勝チームを決定します。	
確 認	◎「永遠に続くいのち」のお話 植物の子孫を残すための懸命な工夫を学びました。個体としてはいつか終わりを迎えてしまう命は、子孫をあとに残すことで、その「いのち」を永遠に持続させていると考えられます。その素晴らしさを、お話から感じてもらいます。	

【プログラムのアピールポイント】

子供たちは「持続性」といっても、今一つ実感として大切さが理解しにくいようです。ところがこの「持続性」ほど、子供たちができる限り早い時期から実感を身につけさせる必要があるものも少ない、と考えます。懸命な工夫で子孫を残す植物の生き方から、ヒトも、自分だけでなく他者、現在だけでなく未来に「持続」することに「しあわせ」があることを、一緒に感じたいと思います。

【授業を受けた先生の声】

- ◎「一度にこんなに多くの種類のどんぐりを見たのは初めてで、面白かった。」
- ◎「タネの飛行実験では、子供たちも大いに盛り上がっていた。」
- ◎「楽しく体験しながら『命のリレー』を感じ取れた。子供たちが日々の生活にこれを交えられたらいいと思う。」